

金鷹山

令和5年(2023)12月1日発行
通巻第19号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

屋根瓦も まもなく干支が交代します



大分県無形民俗文化財 御田植祭(早乙女)の奉仕者を募集します

記

○募集内容

- 若宮八幡社『御田植祭』早乙女の奉仕者
- ・小学6年生までの女の子
 - ・奉仕日 令和6年4月6日(土)
 - ・杵築地区及び北杵築地区にお住まいになる子供さんを原則とします
- ※来年の若宮祭の奉仕者も募集します
(若宮祭は小学6年生までの男女を募集します)



○問合せ先

金鷹山若宮八幡社
宮司 紀田兼宣(きだ かねのぶ) 電話 0978(62)3148(若宮八幡社)

アクセスマップ



来たる十二月二日(土)及び三日(日)に例大祭を斎行します

昨年度に続いて神輿を御旅所まで巡幸 御前神楽承ります
若宮広場をイベント会場として開放します

来たる十二月の第一土曜・日曜日に例大祭が執り行われます。

昨年度は、地元の宮司区の支援をもちましてコミュニティ助成事業により、神輿の各装飾やお供の衣装などを新調し、感染症の対策を講じながら神輿の渡御(お下り・お上り)を行いました。

本年度につきましても、幸領会を経て昨年同様に神輿の渡御を執り行う予定ですので、皆様方に於かれましては、多数ご参拝になりますようお願い申し上げます。

【例大祭の予定】

●十二月一日(金)
午後五時 前日祭

●十二月二日(土)
午前九時 例大祭
午前十時 神輿出御

午後一時 御前神楽

※詳細は下記に記載

(神輿は御旅所に御宿泊)

●十二月三日(日)
午前六時 朝御饌祭
午後一時 斗初穂奉告祭
午後三時 神輿出御

「お上り神事」

神輿が本殿に到着後、

還幸祭を斎行



例大祭後に神輿の出発式



お下り

【御前神楽の勧奨について】

●日時 十二月二日(土)

午後一時から四時頃

1回の神楽が凡そ三十分のお神楽で、右記の

時間内に随時奉納されます。

神楽の冒頭神職により祝詞を奏上し、申込者の氏名と住所(行政区)を神様にお取り次ぎ致します。

〈荒神杖のお下がりあり〉

どなたでもお申込み戴けますので若宮八幡社か、神社総代にお申し込み下さい。

●場所 若宮広場の御旅所

●申込 神楽料一五〇〇円

●神社 〇978(62)3148

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



懐かしの牛馬市



御旅所での みさき神楽



奉納 生け花展

【若宮広場をイベントに開放します】

上の写真のように、以前は例大祭の折りには、日本三大牛馬市が開催され、併せてサーカスや自衛隊の展示なども行われ、賑わいを見せておりました。

昭和四十一年に廃線となった国東線(杵築駅と国東駅を結ぶ)も、牛馬市が開催される際には、臨時の「若宮駅」が開設されるほどでした。

その後、農耕機具の発達に伴い、農作業で牛馬を使うことも無くなり、牛馬市も現在は開催されておらず、例大祭で神輿が御旅所に巡幸されても、2日間は大きなイベントもなく、神社関係者一同は忸怩たる思いでいるのが現状であります。

来たる例大祭を始めとして、年間を通して若宮広場を開放し、各種のイベントなどに使用戴ければと考えております。

あくまでも境内地である若宮広場を無料でご使用戴くことが主旨なので、イベントの準備・費用・広報などは全て使用される方に委ねることとします。

氏子崇敬者の皆様方が、ご理解を戴きますことを希望し、若宮広場ご使用の勧奨について掲載させていただきます。

◎問合せ先

若宮八幡社 電話0978(62)3148

追儺祈願を新たに承ります(二月中旬から二月上旬まで)

初詣のお越しをお待ち申し上げております

【追儺祈願のお勧め】

今回、新たに左記にて追儺祈願を広く承ります。

●日程 新年一月中旬～二月上旬まで

※オリジナル節分福柵(二升柵)は限定三十個のため、無くなり次第終了します。

●祈願料 一万円也

1回の祈願で十名まで昇殿出来ます。

※毎日、三十分ごとに、ご家族また団体のみにて昇殿を戴きます。(単独にて奉仕)

●内容

- ①祝詞奏上
- ②追儺板を叩き厄を祓う
- ③福豆を撒きます
- ④玉串奉奠

●お下がり

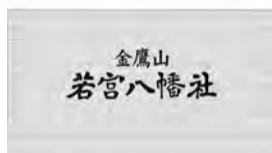
- ①オリジナル節分福柵
 - ②神札・神箸・お守り ほか
- ※お申し込みの際、必ず「追儺祈願」とおっしゃってください。
※新年は勿論、年間を通して諸祈願も併せて承ります。(祈願料 五千円也)



追儺板



オリジナル節分福柵



令和六年の初詣は、諸祈願は勿論のこと、破魔矢・熊手・お守りほか縁起物を調べ、氏子崇敬者のお越しを、一同心よりお待ちしております。

【年越大祓】

●十二月三十一日(日)

午後三時(参列自由)

令和五年の一年間に、知らないうちに積もりに積もった罪や穢れを、人形(ひとがた)に託して、令和六年を清々しくお迎えになりますか？

※古いお札・お守り・神棚・掛け軸などは一年を通して承り、三が日に忌み火でお焚き上げしますので、持参下さい。



干支みくじ(辰)



竈大麻



若宮八幡社電三柱大神



剣先札



金鷹大麻



天照皇大神宮

神宮大麻



特大絵馬



干支絵馬



置き型絵馬



神宮大麻をお祀りする神棚(写真借用 神宮司庁)

日本の未来の宝

七五三詣の祈願祭を

年内承ります

子供たちの健やかな成長を祈念する「七五三詣」を年末まで承ります。

●承り期間 年末まで承り

※十一月二十三日(木・勤労感謝の日)は新嘗祭の為、午後からの承りとなります。

※毎日、三〇分ごとに貴家のみにて祈願を厳修致します。

●祈願料 五、〇〇〇円也

- ・お子様お二人 八千円也
- ・お子様お三人 一万円也

●お下がり

- ・神札(お名前を揮毫)
- ・お守り
- ・千歳飴
- ・オリジナル神社トランプ
- ・オリジナルエコバッグ

※お子様には「紫襟掛け」を身に付けてご祈願戴きます。



子供さんがお召しになる襟掛け



オリジナル エコバッグ



オリジナル神社トランプ



今秋の神事報告 仲秋祭・若宮楽・観月祭を厳粛に斎行しました

去る九月十日(日)に、午前中は神前に於いて「仲秋祭」を厳修の上、午後二時から本殿前の斎庭で、大分県無形民俗文化財「若宮楽」が、奉納されました。

夏休みの前半は宮司区を、後半は北杵築地区を、若宮楽保存会 小春稔会長ほかの懇切なるご指導により、教わる子供たちも一所懸命に練習に励み、二十五名(北杵築小・杵築小・八坂小)の心楽と端樂たちが立派に奉納されましたこと、神様もお慶びになられたことでしょう。

来年以降も1頁にありますように、「若宮楽」また「御田植祭」を奉仕する子供さんを広く募集しております。



観月祭



若宮楽

去る九月二十九日(金)満月の夕刻、吉例により「観月祭」が行われ、神様に雅楽を演奏・奉納し、御心をお慰め申し上げます。

この日のために、紀田宮司(大分県神社庁 雅楽講師)指導の下、隔週の土曜日に受講生は研鑽を重ねて、
・平調(音取)
○鶏徳
○越殿楽残楽

・双調(音取)
○賀殿急

を、奉納申し上げました。令和六年も満月の夕刻に観月祭を行います。隔週土曜日のお稽古見学下さい。(無料・個別指導あり)

次回の社報「金鷹山」第二十号 紙面を拡大して特集記事をお届けします

当社の社報「金鷹山」は、ちょうど十年前である平成二十五年十月一日に第1号を創刊しました。

当時は1年に一回の刊行でしたが、ともすると掲載の内容が、予告なのか報告なのかかわからない...とのご指摘もあり、

現在は年に3回(四月1日号 主に御田植祭の予告内容ほか、九月1日号 主に若宮楽の予告内容ほか、十二月1日号 主に例大祭・初詣の予告内容)刊行して、今号は第十九号を刊行するまでに至りました。

次号は第二十号を来たる令和六年四月一日に刊行する運びとなりましたので、この節目を機会として第二十号特集として紙面を拡大して皆様方にお届けする予定ですので、ご覧下されば幸甚に存じ上げる次第にございます。

【第二十号掲載の予告内容】

○例大祭、初詣の報告
十二月二日(土)及び三日(日)に行われる例大祭で、神輿が御旅所まで巡幸されて御前神楽が奉納されます。

また斗初穂が篤志者により奉納されましたことも紙面をもちまして報告します。
▲若宮広場で各種イベント開催の為、広く開放します。(詳細は2ページを参照下さい)
○新嘗祭斎行の報告
十一月二十三日(木・勤労感謝の日)に行われた新嘗祭の報告を行います。

神前には秋の実りが沢山お供えされましたので、奉納者のお名前を報告します。
▲新嘗祭当日まで、秋の実りのお供えは承っております。(お名前は匿名でも承ります)

○祈年祭・御田植祭の予告

来たる令和六年四月六日(土)に行われる予定であります祈年祭(春の大祭)「秋の実りを神様にお願いする神事」また大分県無形民俗文化財である御田植祭の予告を行います。

今年の御田植祭は、早乙女の人数が足りない理由により、中止の已む無きに至りましたので、来年の御田植祭には早乙女さんを広く募集しております。(詳細は1ページを参照下さい)

○仮称「若宮八幡社史」刊行に向けて

若宮八幡社は、京都男山石清水八幡宮から四柱の神様を勧請し、元宮である西下司の浜田社が創建(寛和元年・985年)され、その後三回の遷座(神様の引越)を経て、現在の金鷹山若宮八幡社に至ります。

浜田社創建から数えて、来る令和十七年度(2035年)が壹千五拾年を迎える佳年を迎えることを壽ぎ各種の記念事業に先立って「若宮八幡社史」を刊行するべく計画するに当たり、神社の古文書等を紐解いて、当社の歴史のご紹介を致します。

○仮称「若宮八幡社奉斎会」設立に向けて

若宮八幡社を物心共々から支援する組織 仮称「若宮八幡社奉斎会」を令和六年度(七月を予定)に設立するべく準備を進めております。

今後、関係各位にご相談の上、規約・人事・予算・会費などの審議を行い、外郭団体として若宮八幡社の護持運営を取り進めて、氏子崇敬者の多数のご入会を勧奨することと相成ります。

神社本庁辞令

神職身分二級上とする
宮司 紀田兼宣
令和五年九月十日付

【編集後記】

▲お部屋でグランドピアノのお稽古に励み、畑の作業に勤しむ鴨川五田の女性。▲ご自宅での屋敷祭が施設に入居したことで出来ないことを心配する西大内山の女性。▲お二人に共通することは、笑顔が本当に可愛らしいということ
です。▲長い人生で色々な経験をされたのでしようが、それをも上回る素晴らしい微笑み。▲たまにお会いするたびに、逆に元気を頂戴して帰ります。▲いつまでもお元気です。そして私の様な鼻垂れ小僧をこれからもご指導下さい▲また伺いますね。